栃幼時報

題字／栃木県知事　福田富一 氏

第116号

平成26年３月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
〒320-0033 宇都宮市本町12-11栃木会館2階
☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
●編集人／馬場章信　●発行人／石嶋　勇
■栃幼連ホームページ http://www.youchien.or.jp

こどもがまんなかPROJECT

平成二十五年度を振り返って

栃幼連理事長　石嶋　勇

皆様の温かいご支援とご指導を賜り平成二十五年度が無事終わろうとしております。衷心より感謝申し上げます。

国会では、平成二十五年七月二十一日投開票で行われました参議院議員選挙も、二十四年十二月十六日に行われた衆議院議員選挙に続き、自民党が大勝しました。これにより衆議院参議院議員が過半数を超えて国会のねじれが解消され、安倍政権は引き続き高い支持率で安定した政権運営を行っております。

一方、マスコミは安倍政権が行う景気対策をアベノミクスとして取り上げ注目してきました。円はドルに対し百円を超え、株価（日経平均）は一万五千～六千円に迫る勢いで、景気の回復の兆しが見えて来たように感じます。

しかし、国民一人ひとりが実感できる景気の回復上昇までには、もう少し時間が必要なのかもしれません。

さて、私たち幼稚園関係者にとって大きな課題が出されております。

その一つ目は『子ども・子育て支援新制度』に伴う対応であります。三党合意（自・公・民）を踏まえ文部科学省・厚生労働省・内閣府が連携しての制度設計をするために、政府　子ども・子育て会議基準検討部会等において、その内容を慎重に審議しておりますが、公定価格・上乗せ徴収・応諾義務などの重要な事項は、これからの会議の進捗を待たなければなりません。

一方、栃木県においても子ども・子育て審議会が設置され幼稚園関係者から委員として二名が選出され、既に第一回の審議会が開催されました。

市町における地方版　子ども・子育て会議の設置状況は二十六市町の内十八市町が設置済み（設置予定含む）でありますので、未設置の八市町には、地区連合会が積極的に働きかけて頂くとともに、県こども政策課・文書学事課等から市町を強く指導して頂きますよう栃幼連としても強く要望しております。

次に『幼児教育無償化』については、関係閣僚・与党実務者連絡会議において「幼児教育無償化に向けた基本方針」が取りまとめられました。そして、自民党を挙げて幼児教育のさらなる振興を図っていくために、平成二十六年度予算において次のように決議されました。

一、幼児教育の無償化を推進するため、幼稚園就園奨励費補助金において、幼稚園と保育所の「負担の平準化」を図る観点から、低所得世帯・多子世帯の保護者負担について保育所と同様の軽減処置を行うこと。

二、私立幼稚園が負っている重要な役割に鑑み、預かり保育や特別支援の一層の充実を含め、充実した教育環境を保障するための私立高等学校等経常費助成費補助の大幅な拡充を図ること。

次に『栃木県への予算要望』については、今年度も、（平成二十五年十一月）平成二十六年度予算要望や政策に関する要望を自民党政策懇談会にて自民党県連政調会に対し要望いたしました。特に運営費補助金の増額と私立幼稚園振興財団への補助率のアップを重点要望と致しました。

なお、本年も福田富一知事に要望書を直接お渡しすることが出来ました。その際知事は幼稚園教育に理解を示され、温かい言葉も頂きました。私たちは、栃木県の幼児教育の更なる質の向上と県民の期待に応えるべく努力することを約束してまいりました。

この様に栃幼連は、私立幼稚園振興連盟・振興財団・栃幼ＰＴＡ連合会と一致協力して予算要望・政策要望・教員・保護者の研修会を実施してまいりました。

これからも、経営の安定と資質の向上を目指して研鑽努力してまいりますので、会員各位のご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成二十五年度を振り返って

文書学事課長　永井　茂明

この一年を振り返りますと、昨年四月に、国に「子ども・子育て会議」が設置され、十月には、県版の「栃木県子ども・子育て審議会」が開催されました。このように、今年度から子ども・子育て支援新制度の具体的な検討が開始されたことが一番の出来事に挙げられると思います。

この新制度は、平成二十七年四月から本格的にスタートする見込みですが、施設型給付の創設など、幼稚園にとって大きな制度の変更となります。県では、各幼稚園が円滑に新制度に移行できるよう、各市町とも連携を図りながら、適切に対応していきたいと考えております。

さて、御案内のとおり、少子化の急速な進行や核家族化に伴う家庭や地域の子育て力の低下など、子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化しております。

県といたしましては、幼稚園が果たす社会的役割を十分認識し、次代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、運営費補助金の充実や安心こども基金による子育て環境の整備など、質の高い幼児教育の確保に尽力しているところです。引き続き皆様と共に、幼児教育の振興や子育て支援の充実に取り組んで参りますので、皆様の更なる御理解と御協力をお願いいたします。

研修会だより

資質向上選抜養成講座Ⅸ

第一回　七月十一日（木）

午前の部
「子どもが伸びる保育・保育者」
講師　宇都宮共和大学准教授
　　高柳恭子先生

午後の部
「造形あそび」
講師　文星芸術大学教授
　　林　香君先生

第二回　八月二十日（火）

午前の部
「子どもは自然から何を学ぶのか」
講師　学校法人関西学院聖和幼稚園
　　園長　出原　大先生

午後の部
「保育を楽しむためにすること」
ゲスト　出原　大先生
聞き手　呑竜幼稚園
　　園長　小林研介先生

第三回　十月十九日（土）

午前の部
「保育をプランニングするということⅡ」
講師　呑竜幼稚園
　　園長　小林研介先生

午後の部
「園内研修をデザインしてみましょう」
講師　栃木県教育センター長
　　田渕光与先生

第四回　十一月十四日(木)・二十日(水)

午前の部　呑竜幼稚園視察

午後の部　保育研究
ファシリテーター
愛泉幼稚園　副園長　小倉庸寛先生

以上の日程及びテーマにて、講座が終了いたしました。講師の先生方の熱意あるお話に引き込まれ、自分の保育を振り返り見直す良いきっかけとなりました。又、昨年受講された先生方多数の希望もあり、呑竜幼稚園視察が行われました。

（教育研究委員長　山荷　フサ子）

設置者・園長研修会
明日に向けて幼稚園の振興を考える

平成二十六年一月二十四日ホテルニューイタヤを会場に恒例の設置者・園長研修会が開催された。
百二十園で百四十一名が参加し、今後の幼稚園振興について研鑽に励んだ。

理事長あいさつ
理事長　石嶋　勇

まず、石嶋勇理事長より新年の挨拶の後、参加者への感謝の言葉が述べられた。続いて、講師紹介があり核心に触れた話が聞けるのではないか、特に、子ども子育て法案についての情報が少ないため、この研修会で少しでも学んでいただきたい、また、栃幼連としても今後、皆さんと共に歩んでいきたいと話された。続いて、荒居養雄経営研究委員長より趣旨説明があり、研修に入った。

研修1
「幼稚園をめぐる現状と課題」
講師　栃木県経営管理部文書学事課
副主幹　小倉　敬子　氏

平成二十五年度幼稚園設置学校法人等財務関係調査結果について、調査目的、調査事項、調査対象、調査結果の順で話を進められた。（主な指摘事項）として、一.学校法人の管理運営について。（一）ア.予算は三月末、決算は五月末までに、理事会等開催は書面で。イ.事業計画、事業実績の作成、書面での意思表示。ウ.運営上の重要事項は理事会、評議員会にはかること。エ.議事録署名は自署を徹底。オ.理事、監事、評議員は任期前に改選、改選後は登記済届、理事、監事就任届を速やかに提出すること。（二）監事は決算の理事会に出席。（三）情報公開書類の作成。（四）資産登記変更は五月末までに。二.幼稚園の管理運営について。（一）防災マニュアルの作成。（二）各種規定の整備。（三）園地の借用の手引き等。（四）園地・園舎変更届の提出について。（五）園則変更届の提出について。三.会計処理について。（一）現金管理の適正化。（二）借入金等の処理。（三）補正予算。（四）みなし退職金の経理について。その他、教員免許状の確認、調査報告書等提出書類の期限は厳守してほしい。以上の話をいただいた。

研修2
「幼児期の学校教育に求められること」
講師　栃木県幼児教育センター
センター長　田淵　光与　氏

この研修では、一.『質の高い幼児期の学校教育』とは、この事例をどう考えるか。二.小学校の準備教育？これから求められる学び方・知識。幼保小連携で見せるもの。三.保護者・地域へのアピールについて。具体的な教育目標や専門性とは。これらについてお話しいただいた。特に、共同性（集団性の勉強）、グローバル社会の人間関係、個人の目標、教育理念、教育目標、五歳で話し合う力を養うなど、これからの、『幼児期の学校教育に求められること』について事例を交えて詳しく聞くことができた。

最後に、幼児教育センターで行っている、保育・教育アドバイザーの派遣を、園内研修など各種研修会に活用して欲しいとの話があった。

研修3
「少子化の現状と子ども・子育て支援新制度について」
講師　栃木県保健福祉部こども政策課
副主幹　野口　善幸　氏

前半は少子化の現状について
一.日本の少子化の状況
①出生数と合計特殊出生率の推移
②子どもの数の減少
③人口構造の変化
二.栃木県の少子化の状況
①出生数の推移
②合計特殊出生率の推移
三.栃木県の晩婚化・未婚化の進行
①晩婚化の進行
②未婚化の進行

のそれぞれについてグラフの資料に基づいて推移の説明があった。栃木県はそれぞれのグラフにおいてわずかに全国平均より良い、と思われる状況であったが、少子化、晩婚化、初婚率年齢、未婚率等、すべてにおいても傾向は全国推移の例外とはなっていなかった。

少子化の現状（意識調査）については分析などの興味を誘うものであったが時間の都合上資料の提示のみであった。

後半は「子ども・子育て支援新制度について」の本題とするところであったが新制度の説明、現行制度と新制度の違い等、現状における具体的な資料の提示とその説明があったが、施設型給付費が最終的にそれぞれの市町が、「標準的な学校教育の提供のために『通常要する費用』と（国が設定した基準より算定した額）の差額を参酌して定める額」として決めることになるため、具体的な数値が出てこないことも不安材料であった。

しかし、本格施行までの作業スケジュール・イメージ図が提示されるに至り、幼稚園連合会加盟園として決断を迫られることになる。

研修4

「子育てを取り巻く現状と課題」

衆議院議員（文部科学委員会委員長）
小渕　優子　氏

少子化の原因の七割は晩婚化・未婚化による。これまでの少子化対策は子育て政策だったが、出会いを含めた結婚対策から出産・育児・教育・若者支援まで通してやらなければならない。

消費税の増税分の三％はすべて社会保障に使われる。これまで社会保障費は年金・医療・介護の三経費だったが、今回の増税を機に子育てを加えて社会保障四経費としたことが一番重要なポイント。子育てに安定的な財源である消費税を確保できたのは大きな前進。

幼児教育では、二十六年度予算ではまず生活保護世帯が無料になる。また、保育園と同じように六年間で第二子第三子をそれぞれ半額、無償とする。

今後は、まず五歳児を小学校に上がる前の義務教育的位置づけとして無償にしていく。ここから幼児教育の無償化に入っていくのが順番としてはいいのではないか

子どもを育てることは日本の未来を創っていくこと。子育てと教育にライフワークとして関わっていきたい。

寄稿

子どもたちと過ごした五十年

きぬ川幼稚園長　武田　純子

昨年十一月十五日、清滝幼稚園が創設百年を迎え、私も久しぶりに園舎の中に入った。懐かしさでいっぱいになった。四十二年間勤務させてもらった清滝幼稚園、今でも大好きである。

私が古河電工附属幼稚園に就職したのは、今から五十年前、東京からはるばる日光へ、当時の国鉄で試験を受けに来た。四つあった幼稚園の中で清滝本園に決まり、毎日寮から歩いて通勤した。

自然に囲まれのびのびと子どもたちに負けずに走りまわった記憶が甦ってくる。今度来た先生は背が高く活発な人、美人とは言われなかった。残念！。言ってくれたのは子どものみ！「かわいいね」ですって。ピンクのセーターなど着ていくともう大変、べたべたとさわられ私について来てくれた。

四月になって季節はずれの大雪で日光東照宮のお祭りが中止になった時、子どもたちと元気に雪遊びをした。雪の中に放り投げたり押し込んだりと、今思うとずいぶん乱暴なことをして遊んだと思う。

日光は寒さがきびしく、夜、共同風呂からあがると、部屋に戻るまでにタオルも髪の毛もカチンカチン。東京生れの私は本当に寒かった。

秋の運動会のこと。ゲームの中でお父さん同士がぶつかってケガをしてしまったのだが、「子どもの前で痛くてもがんばるヨ！だいじょうぶだヨ！」と言って最後まで運動会を続けられた。お父さんに涙が出てしまう程、感謝！。忘れられない思い出のひとつ。

ある日の子どもとの会話。「先生はお嫁さんにいかないの？」「だってもらってくれる人がいないの」「じゃあぼくが大きくなったらお嫁さんにしてあげるからね」「あらうれしい！でも○○ちゃんが大きくなる頃は先生はおばあちゃんになっているよ」。○○ちゃんも、今では五十歳。二人の子のお父さんになっている。最初に受け持った子どもは、もう五十五歳。孫もいる。

平成九年一月に学校法人になるまで、幼稚園は会社の総務課の所属だった。旅行、新年会、忘年会、それはそれは楽しい思い出である。今でも一年に一度、当時の仲間と一緒に七夕会と称して一泊で食事会をしている。

会社の人たちとキャンプファイヤーなどをした「合コン」も懐かしい。ある方が私の所に来て「○○先生をお世話して…」「あゝ残念、その先生はもう売れてしまったヨ」「じゃ□□先生は」と言うので会わせてあげると、お互い意気投合して愛し合うことになり、その二人の仲人をすることになった。うれしかった。その後八組の仲人を経験した。

日光の冬は、なんと言ってもスケート。子どもたちはスケートが大好き。週一回、初めは歩くことからのスケート教室。スケート選手のお兄さんたちが先生になってくださった。子どもたちの上達ぶりはすごい。年長さんになる頃はスイスイの一人前のスケーターになっていた。小学、中学、高校、大学と、ホッケー選手になるための努力には驚くばかりである。夏でもホッケー。スティックが遊び道具だった。

今年は日光で十八年ぶりに冬季国体が開かれ、二月一日二日と見に行った。卒園児がキャプテンを務めてがんばる姿を見てうれしくなり涙が出た。他の子どもたちもがんばっていた。こんなにも大きくなって…。私が年を取るのは仕方ないなあ…と思いながらも、試合が始まると、我を忘れて大きな声で子どもたちの名前を呼び、思いっきり応援した。とても満足な二日間だった。

清滝幼稚園を去り、今はきぬ川幼稚園にお世話になっている。こうして幼稚園の先生として五十年目の節目を迎え、子どもたちと共に歩んだ教員生活を誇りに思うと共に、支えてくださった地域の方々に心より感謝の気持でいっぱいである。

これからの人生は、未来を担う子どもたちのために、体の続くかぎり頑張って新しい事に挑戦していきたいと思う今日この頃である。

平成二十五年度　第三回保育セオリー講座

- 期日　平成二十五年十二月十七日(火)
- 会場　コンセーレ（大ホール）
- 参加　百五十四名
- 内容
「豊かな人間関係を育む教師のかかわり」
～新制度を踏まえた教師の資質向上のために～
- 講師　聖徳大学大学院教授　**篠原　孝子**　氏

ひとくちメモ

生きる力の育成ということで、エリクソンの発達課題、子ども・子育て三法について触れ、教育要領や幼小連携の必要性について、また教師の質、資質向上の必要性について話を聞いた。人間関係や保育のつながりを豊かにすることの大切さがより求められることや、保育でのちょっとした環境の工夫で子どもは心を動かす体験ができ、思いを育むことにつながっていくという事であった。

発達課題を理解し、幼稚園教育要領の五領域を総合的に展開していくことで、生きる力の基礎を育成することにつながる。また、それを踏まえた上での保育者としての役割や、日々の保育を展開していくことの大切さについて考えさせられる講座であった。

青年部県外視察

平成二十五年十一月二十一日から一泊で県外視察研修が開催された。参加者は二十六名。川崎市にある宮前幼稚園と同市にある株式会社運営のみつばち保育園の二カ所の視察で、宮前幼稚園では施設見学後、亀ヶ谷園長先生に講話を頂き、園の環境（ビオトープ等）の大切さや写真を通じて園の生活や子どもたちの育ちを理解するということを学んだ。

二日目のみつばち保育園は、民家を改築しての施設ということで、限られた環境の中での保育、土地柄による運営面での悩みもあるようだった。

今回、視察して感じたことは、子どもたちにとって環境はとても大切ということである。限られた施設の中でも良い環境づくりをしていきたい。

（金子　礎泰）

青年部合宿研修

平成二十六年一月三十一日、二月一日と二日間の青年部合宿研修が開催された。今回は、初日は那須塩原市のひばりヶ丘保育園を会場に園見学と講演が、二日目には日を変えて西那須野幼稚園の見学を行った。

ひばりヶ丘保育園は、周囲を林に囲まれていて、とても恵まれた環境に立地する保育園で、今回は午後のひとときを見学する機会をいただいた。たっぷりと陽光を取り込める園舎はとても暖かで落ち着いた雰囲気を醸していた。

また、同保育園を会場にした講演では、「幼稚園経営の神髄」と題して、船井総合研究所・チーフ経営コンサルタント、石田敦志氏にお話しいただいた。船井総研というと、どちらかというと手法に特化したコンサルタントというイメージがあったが、今回は幼稚園経営において大切なこと、なぜ誰のために幼稚園があるのかという根本の部分を問い直される内容であった。まさに、「幼稚園経営の神髄はなにか」ということを垣間見ることになった。今後の園経営の道筋を示してくれたとともに、活力を与えてくれた素敵な講演となった。

職員用の園バスまで動員して送迎いただいた那須地区青年部の「おもてなし」は忘れられないこととなった。

二日目の西那須野幼稚園では、二〇一一年からこども園になったということで、新しい保育園舎を中心に、星形？の興味深いデザインの幼稚園舎や、旧園舎を利用した学童保育施設、バス待合室などを見学した。

準備に当った先生方のお陰をもって、より多くの青年部員が参加し、たいへん充実した研修となったことを報告する。

（佐野　延洋）

平成26年度私立幼稚園関係予算案

（単位：千円）

事業名	平成26年度予算額(案)	平成25年度予算額	概要
1 幼稚園運営費補助金	5,763,147	5,576,341	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児一人当たり　181,100円(H25　178,500円) うち満3歳児　411,279千円(H25　340,400千円)
2 幼稚園教材費等補助金	13,764	15,093	個人及び宗教法人が設置する幼稚園の教材費等経費に対する助成 園児一人当たり　39,100円(H25　同額) うち満3歳児　704千円(H25　1,525千円)
3 地域子育て推進事業費補助金	329,770	333,220	
(1)子育てランド事業	32,330	33,900	幼稚園が実施する①～⑤の事業に対する助成 ①子ども遊び場確保事業 ア　園地・園舎開放事業 イ　放課後児童クラブ事業 ②未就園児親子教室事業 ③幼児教育に関する各種講座開催事業 ④地域の子育て支援に関する情報提供・紹介事業 ⑤その他市長が定める子育て支援事業のうち、知事が適当と認めるもの A　上記のうち2事業実施 1園当たり　130千円（市町130千円以上の補助が条件） B　上記のうち3事業以上実施 1園当たり　200千円（市町200千円以上の補助が条件）
(2)わんぱく保育推進事業	297,440	299,320	私立幼稚園が行う預かり保育事業に対する助成 ○通常分 1園当たり　800千円、1,200千円、1,600千円 ○特定分(4時間超) 1園当たり　160千円、280千円、400千円 ○長期休業分 1園当たり　160千円、280千円、400千円 ○休業日分 1園当たり　300千円、480千円、660千円
4 幼稚園第二子等保育料減免事業	0	30,887	就園奨励費の拡充により、補助対象がすべてカバーされた。
5 栃木県私立幼稚園振興財団補助金	147,135	153,572	私立幼稚園教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成 ・補助率→教職員標準給与額の27/1000(H25同率)
6 特別支援教育費補助金	438,256	373,968	特別支援を要する園児が就園する幼稚園に対し、その経費の一部を助成 対象園児一人当たり　学法二人以上　784千円（国庫対象） (H25同額)　上記以外　392千円（県単）
7 私立学校教職員共済補助金(幼稚園分)	57,641	56,528	長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助(H25同率) ・対象者　2,690人　(H25　2,635人)
8 栃木県幼稚園連合会補助金	3,000	3,000	栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率　定額(1/2以内)
9 幼稚園特別研修費補助金	3,000	3,000	栃幼連が行う子ども・子育て支援新制度を踏まえた、研修事業に要する経費及び関東地区教員研修栃木大会に要する経費に対する助成 ・補助率　定額(1/2以内)
10 私立学校被災児童生徒授業料等減免事業費(幼稚園分)	3,130	3,629	被災児童生徒に係る私学授業料減免事業に対する助成 ・対象者　32人　(H25　36人)
11 幼稚園耐震化事業費	1,859,485	1,321,373	認定こども園への移行を予定している私立幼稚園の耐震化事業に対する補助 ・補助率　1/2(安心こども基金活用事業)
12 幼稚園緊急環境整備事業費	58,440	0	○学校法人立幼稚園が行う遊具等環境整備に対する助成 ・補助率　認定こども園　1/2　左記以外幼稚園　1/3 (安心こども基金活用事業) ○認定こども園等における研修支援 ・補助率　1/2(安心こども基金活用事業)
	8,676,768	7,839,724	

平成26年度予算案の内容について

平成 26 年度予算に関しては、現行制度における最後の予算要望という状況の中、運営費補助金に特化する方向での要望を目指す形となりました。27 年度からの新制度における公定価格の設定に関する基礎になることを想定しての方針でした。結果的には、県単上乗せ分の減少をおさえ、18 万円に乗せることができましたが、大きな成果を上げるには至らず、昨年同様、現状維持にとどまるところとなりました。

27 年度の要望は、新制度に向けて、各園の方向性への対応が必要となります。現栃幼連の加盟園が、それぞれの立場での事業が安定したものとなるよう、予算要望を展開することとなります。これからも、県議会、担当課との折衝を重ねて予算獲得に努力をしていきたいと考えています。振興連盟との連携のもと、加盟園の皆様の更なるご協力を背景に振興活動を展開してまいります。変わらぬご協力をお願いいたします。

振興委員長　宮入 玄英

幼児教育センターだより

今年度も各研修や調査研究等、幼児教育センター事業への御協力ありがとうございました。

新規採用幼稚園教諭研修が修了しました

昨年十二月二十六日に、全日程が修了しました。集合研修、宿泊研修、地区研修等、様々な内容を含む研修でした。受講生からは、「四月の頃は不安でしたが、今では少し自信をもって担任をすることができています。」「新採研に参加するたび、初心を思い出し、素晴らしい仕事に就けている喜びを感じました。」「同じ悩みをもつ仲間と励まし合えるこの研修があったからこそ、頑張れました。」などの感想が寄せられ、この一年で得たものを実感しているようでした。今後の活躍を心より応援しています。

幼稚園教職十年経験者研修が修了しました

幼稚園教職十年経験者研修(三十二名)の全日程(園外研修六日・園内研修十日)が修了しました。

センターにおける研修では、義務教育以降の教育の基礎を培う幼稚園として、開講式・閉講式を、小・中学校、高等学校、特別支援学校の十年目研修と合同で実施しました。

十年のキャリアを振り返り、自園の環境や教育内容について考える「中堅教員のための組織マネジメント」、小・中学校教諭と合同で協議した「幼児期から児童期への教育」、ビデオ視聴を通して子どもの姿から考える「協同する経験とは」等の講話・演習により、ミドルリーダーとしての力をさらに伸ばすことができました。受講生の感想を紹介します。

園における自分の立場や役割に、改めて気付くことができた。幼児教育の喫緊の課題に関する協議や課題研究等を通して、組織の中で、自分に求められていること、やるべきことが具体的に見えてきた。

同じ立場の先生方との協議は、内容の濃いものだった。研修を終えた今が「始まり」だと思い、ミドルリーダーとしての自覚をもって、園を支えていける人材でいられるよう学び続けたい。

幼・保・小ジョイントプロジェクト(岩舟町)

本事業は、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の実現に向け、幼・保・小の教職員が相互理解を深め、指導力を高められることを目的としたものです。今年度は、岩舟町で五回実施しました。岩舟幼稚園、岩舟小学校での保育・授業、交流活動を、町内の幼・保・小・中の教職員が参観し、協同的な学びを視点とした協議を行いました。参加者の意見を御紹介します。

1年生が協同的に学ぶためには、幼児期に考える楽しさを経験する必要があると思った。一人一人が考えをもち、友達の意見に耳を傾けられるように、遊びや生活の中で育てていきたい。(幼稚園教諭)

幼稚園の先生は、幼児が主体的に活動できるように環境構成し、多少のトラブルがあっても見守っていた。私も、もっと子どもを信じて、子ども自ら行動できるように、待つ姿勢を見習いたい。(小学校教諭)

栃木県教育研究発表大会「幼・保・小連携部会」

回を重ねるごとに、幼・保・小の教職員の関係が深まっていくことを感じました。この成果を県内に広く発信していきたいと思います。

今年度の「幼・保・小連携部会」は、「体を動かすことが大好きな子どもを育てよう~幼児期から児童期に遊びや生活の中で大切にしたいこと~」のテーマの下、行いました。

ふたば幼稚園からは、幼児が自然にやっている敷石飛びの姿を見て、教師が使い古しのマットを切り、幼児が自由に動かして準備と片付けができる教材を手作りするなど、幼児の遊び心と主体性を大切にした体づくりの実践発表をいただきました。

参加者からは、「子どもが自らやってみたいと思える工夫をしたい。」などの感想が多く出されました。

●発表者
ふたば幼稚園(大田原市)
園長　浅見　容子　先生
南高根沢ひばり保育園(芳賀町)
主任保育士　大根田かおり　先生
那須塩原市立稲村小学校
教諭　奥山　規子　先生

リーフレット「一人一人に応じた指導の充実~集団の中で、全ての子どもがその子らしく輝くために~」

「今までの指導では、何だかうまくいかない」「その子のよさをうまく生かせない」等、日頃の保育で悩んだり、行き詰まったりしていませんか?そのようなことの解決の一助になるよう、教職員のための指導資料を作成しています。四月に全幼稚園に送付しますので、日々の保育や園内研修等で御活用ください。

学事だより

県文書学事課

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は平成二十六年五月七日（水）です。公認会計士等の監査日程の都合により、提出期限までに平成二十五年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いします。

●幼稚園教材費等補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は平成二十六年四月一八日（金）です。

●幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに平成二十六年四月四日（金）です。

●平成二十五年度決算書及び平成二十六年度予算書の提出について

平成二十五年度決算書及び平成二十六年度予算書の提出期限は、平成二十六年六月三十日（月）です。決算書（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園宛てに別途メールでお送りします。予算書も決算書標準様式と同様に作成してください。

●資産総額の変更登記済届

平成二十五年度決算に伴う資産総額の変更登記は、平成二十六年五月末日までに行い、六月三十日（月）までに登記済届を提出してください。

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

平成二十六年度学校基礎調査ヒアリング（園児数確認）の実施について

平成二十六年度学校基礎調査ヒアリング（園児数確認）については、平成二十六年五月七日（水）から九日（金）、十一日（月）及び十四日（水）の五日間を予定しています。

詳細については、別途通知いたしますが、担当者の出席について御協力をお願いします。

平成二十六年 四月～六月までの事業予定

4月2日	新規採用幼稚園教諭研修（集合研修）
5月16日	栃幼連 通常総会（25年度決算総会）
5月19日	※10年経験者研修（共通研修）
5月21日	※調査研究委員会
5月29日	※合同研修（幼・保・小）
5月30日	※合同研修（幼・保・小）
6月3日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
6月4日	※パワーアップセミナー
6月5日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
6月6日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
6月10日	新採研指導者事前打合会
6月11日	保育テクニカル講座
6月12日	設置者・園長研修会
6月13日	青年部 全体委員会・研修会
6月17日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
6月19日	※合同研修（幼・保・小）
6月20日	新採研 公開保育（宇大附属幼稚園）
6月24日	※トップセミナー
6月25日	新採研 公開保育（宇大附属幼稚園）
6月26日	※保育・教育課程研究セミナー
6月27日	栃木県幼稚園PTA連合会 総会
6月28日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
	教頭・主任講座
	※は幼児教育センター事業

＊総会予告＊

平成二十六年度

栃幼連 通常総会

（二十五年度 決算総会）

平成二十六年五月十六日（金）

会場：コンセーレ

慶事

●宇都宮市 すずめ幼稚園

創立四十周年記念式典

平成二十六年三月一日

表彰

高齢者叙勲

瑞宝双光章（教育功労）

●栃木幼稚園・若葉幼稚園

理事長・園長 松下 明世 様

訃報

●足利市 足利ひかり学園幼稚園

園長 宮入 久子 先生

平成二十六年一月十日 逝去

●宇都宮市 あつみ幼稚園

前理事長 荒川 忠 先生

平成二十六年二月六日 逝去

●矢板市 すみれ幼稚園

前理事長・前園長 岡本 義雄 先生

平成二十六年二月十八日 逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

間もなく、平成二十五年度も終わろうとしています。私が初めて広報委員をお受けしてから、早二年。もうすぐ、任期を全うできます。馬場広報委員長をはじめ、金子ホームページ委員長、また本誌の編集にご協力くださいました皆様には心より感謝いたします。

平成二十五年度に入ってからは、新制度を見据えて数多くの研修会が実施されました。しかしながら、一月時点でも大枠ともいえる公定価格等未確定な部分も多いのが現状です。地方版子ども子育て会議が、各市町村でも設置され平成二十七年度に向かい動き始めています。先日、私も足利市の一回目の子ども子育て会議に参加させて頂きましたが、まだまだ市町村も全体の把握は難しいようです。これから各自治体の条例が、短期間で加速度的に決まっていきます。

このような状況の中、来年度早々には自園に最適な道筋をつけなくてはなりません。非常に難しい選択ではありますが、一番良い選択ができればと思います。（遠藤 英昌）